

録音室の機材について（テープ録音）



マイク

先端が金色で球形網状のダイナミックマイクを使います。本体のスイッチは常時オンのままで OK です。デッキの「MICROPHONE」ジャックに、マイクプラグを挿入します。（右図）



ヘッドフォン

再生モニターには必ずヘッドフォンを使います。

箱に入っている AKG の「K141MK II」というヘッドフォンを使います。

ヘッドフォンのプラグには「変換プラグ」を装着した上で使用します。変換プラグは、ヘッドフォンの箱の中に入っています。

変換プラグの根元は内ネジになっています。

ヘッドフォンプラグの基部には外ネジが切ってあります。ヘッドフォンプラグを変換



プラグに差し込み、右回しに捻って固定してから、デッキのヘッドフォン出力ジャックに挿入します。

ヘッドフォンから聞こえる音量は、ヘッドフォン出力ジャックの上にある、小さな「PHONE LEVEL」ツマミを回して調整します。

CAUTION ! 録音する時に、アンプを通してスピーカーから音を出すと、ハウリング障害が発生します。録音が終わった後で、(数人でなど) 確認のため再生試聴する時以外、アンプは使用しないでください。

テープデッキ

2台あるデッキの内、上のデッキを使用します。

レベルメーターの表示は、ある瞬間の最大音量が、短時間残置されるようになっていきます。(左下図) これが、自分の録音レベルを調整する目安になります。



左図円内に、レベル表示の右端が分離して残っています。これが最大レベルの残像です。これが、写真の例よりももっと右、**+2**の辺りにあるのが適当でしょう。

このデッキには、「後追い録音機能」が付いています。使い方は以下の通りです。

間違いを修正する時、間違った箇所の少し前からテープを再生します。ヘッドフォンで聴きながら、同じ原稿をテープの音に合わせて、マイクに向かって朗読します。間違った箇所の直前まで来たとき、素早くデッキの「REC」ボタンを押すと、そこから先はマイクから入る正しい読みの音声が入ったテープの間違った音声に上書き録音されます。

テープ

収録予想時間を考えて、できるだけ短いテープを使います。C-90型は材質が弱いので、なるべく使わないようにしましょう。

C-50、C-65、C-70、C-74 テープをを用意しておきますので、お使いください。使用済み品ですが、純粋日本製の良品です。使用前に消磁してください。

録音完了テープは、タイトル／録音者／日付等を書いた紙片を付けて、プラスチックボックスの引き出しに入れておいてください。

アンプ

再生時に電源をつないで、聞きます。録音時はスイッチを入れないでください。

使用後は音量調整つまみをゼロ(左に回し切り)にしておきましょう。

CAUTION ! コード、ケーブル類をしまうときは、緩やかに折りたたみましょう。絶対に巻き付けないでください。

「巻き付け→ほどき」を繰り返している内に、コード類は画像のように変形します。その結果、信号が正常に通りにくくなる、ついには断線する等、重大トラブルにつながります。



後片付け

自分の後で、近々録音する人があるか無いか、ある場合は、その人がテープ派か DAISY 派かによって、片付け方が異なります。

第一のケース

自分の後にテープ録音をする人がある場合。〈片付けは至って簡単、楽ちんです〉

- ①製作したテープを収納しておくこと。
- ②デッキの録音音量ツマミ、ヘッドフォン音量ツマミを左に回しきっておくこと。
- ③デッキのスイッチを切ること。
- ④壁のコンセントから、テーブルタップのプラグを抜いておくこと。
- ⑤録音室の照明・エアコンのスイッチ等を切り、ドアに施錠すること。

第二のケース

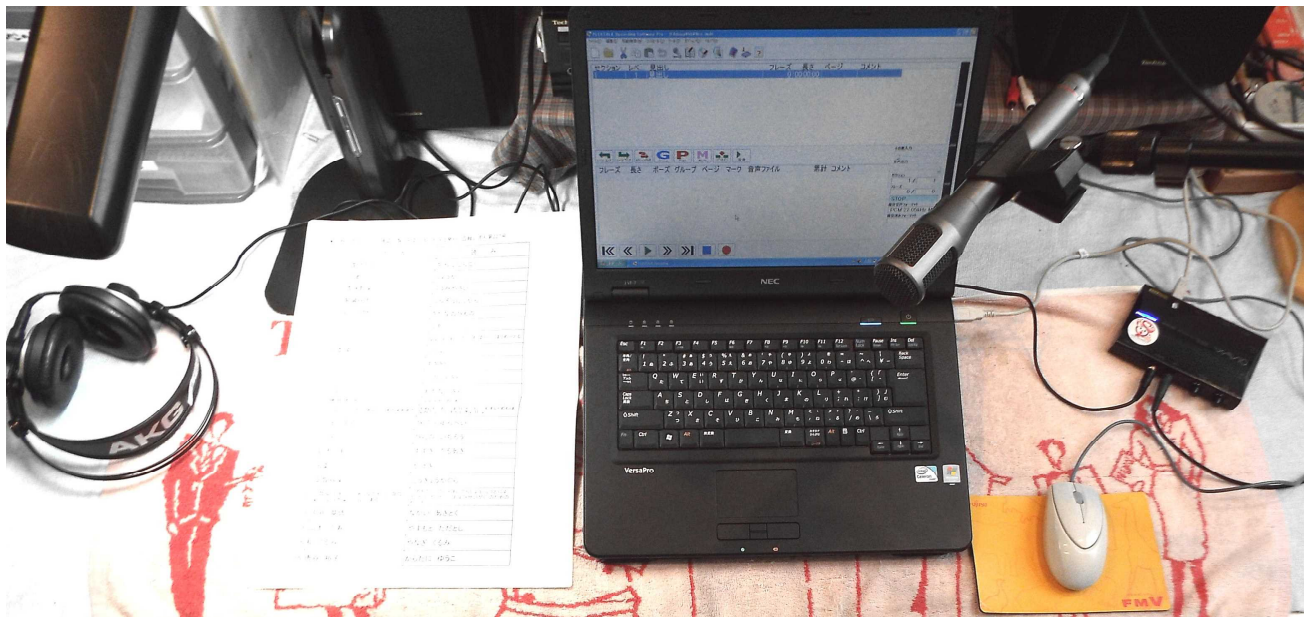
自分の後にデジタル録音または編集をする人がある場合。

または、しばらく使用者が無い場合。

- ①製作したテープを収納しておくこと。
- ②デッキの録音音量ツマミ、ヘッドフォン音量ツマミを左に回しきっておくこと。
- ③デッキのスイッチを切ること。
- ④マイクプラグをデッキから抜き、マイクはスタンドに取り付けたまま、コードもまとめてデスクの右奥の方に寄せておく。
- ⑤ヘッドフォンのプラグを抜き、アダプターを取り外して、ヘッドフォンとアダプターを箱に収納しておくこと。
- ⑥壁のコンセントから、テーブルタップのプラグを抜いておくこと。
- ⑦録音室の照明・エアコンのスイッチ等を切り、ドアに施錠すること。

以上です。お疲れ様でした。

録音室の機材について (DAISY録音)



PCスタンド

傾斜した PC スタンドを、デスクの座り位置中心より少し右寄りに置きます。隙間があるのは、PC の底面から効率よく冷却風を通すためです。キーボードの操作がしやすいように、手前に傾斜しています。



PCの設置と配線

スタンドの上に PC を乗せます。PC スタンド手前の滑り止め位置に、PC の手前が止まるように置きます。

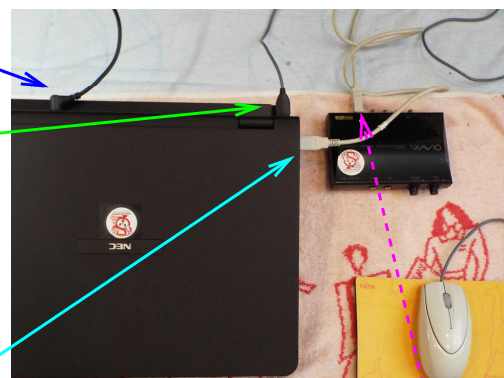
PC に各種ケーブルをつなぎます。

PC 背面の電源接続ジャックにプラグを差し込みます。電源ユニットはデスク右後方に置いて、ケーブルを PC 背面に伸ばした形になります。

電源ユニットの差込プラグはまだつながないでおきます。

マウスのプラグを PC 背面の USB ポートに接続します。

AIF (オーディオ・インターフェイス、ONKYO 製 SE-U33GXV) の白い USB ケーブル、平たい方のプラグを PC の右側面後方の USB ポートにつなぎます。なお、AIF 後方のケーブル接続部はかなり脆弱ですから、物理的な力が加わらないように注意深く取り扱ってください。この製品はメーカーでの生産終了。入手はおろか、修理も不能です。



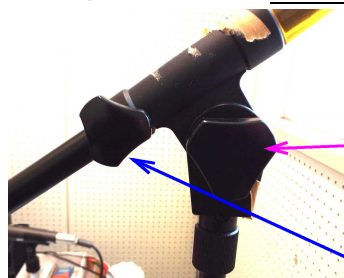
マイク用ブームスタンド

形式：三脚で自立する垂直ポールから、横にブームアーム（腕木）を伸ばし、先端に取り付けたマイクを話者に横から差し出す形式です。卓上マイクスタンドのように卓上の場所を取りませんから、各種操作が楽になります。

設置手順：

①三脚を広げる。

②垂直ポール固定用ノブを緩めて、垂直ポールをいっばいに持ち上げ、その状態で固定用ノブを締める。



③ブームジョイント固定用ノブを緩めて、ブームを横に伸ばし、適当な角度で固定用ノブを締めて固定する。



④ブームの長さは、ブーム長固定用ノブを緩め、ブームを前後に滑らせて調整出来る。

なお、写真には見えていませんが、ブーム後端にはバランス調整用の重りが付けられています。

⑤垂直ポールの高さ調整は、垂直部の途中にある高さ調整ノブを緩め、上側ポールを上下させて位置決めした後、ノブを締めて固定する。



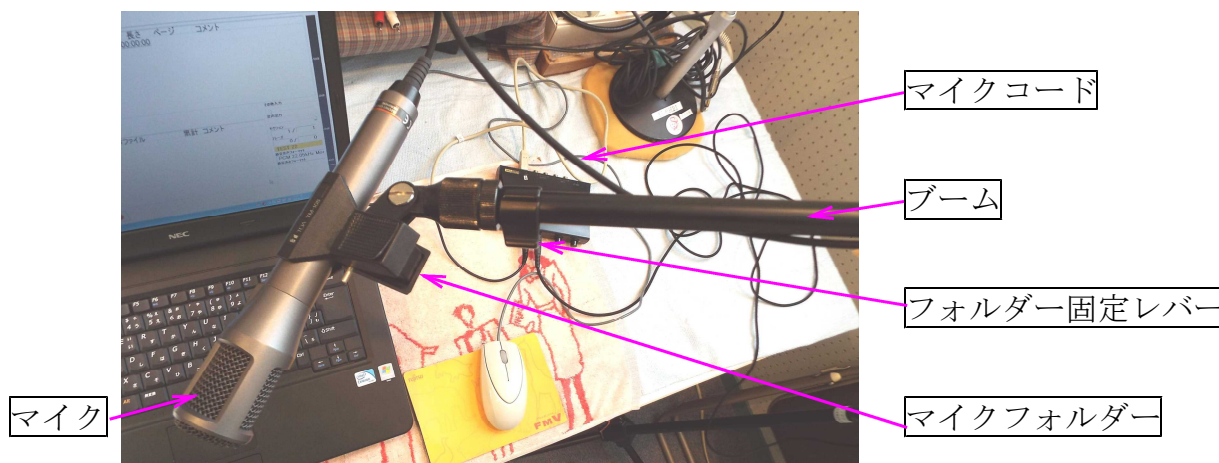
⑥ブームの先端にマイクホルダーが取り付けられている。ブームの高さが決まったら、マイクを装着して、音訳者の口との距離、角度を決めます。ホルダーのネジ、ブーム先端部のホルダー固定レバーなどを調整して、何度かやり直し、具合のよい位置に固定しましょう。

マイク

機種：ソニーのコンデンサーマイク

設置：ブーム先端のクリップ式ホルダーに取り付けます。

話者の口からマイク先端までの距離が20～30 cm 程度になるよう設置します。



コード：マイクコードはブームに沿わせてスタンドの方に導き、ブームの途中で結束バンド等で固定し、ぶらつかないようにします。コード先端のプラグは、**AIF** のマイク入力ジャックに挿入します。コードの途中は **AIF** にも、マイク本体にも、わずかでも物理的な力が掛からず、手などが触ることの無い辺りにゆったりと放置します。

その他：マイクは、普段はケースにしまっています。

マイクの筐体には単三乾電池を内蔵しています。

筐体前方にスイッチがあります。録音時にオン、使用後はオフにします。スイッチオンの時、一瞬だけ赤い **LED** が光ります。光らないときは、電池が消耗している恐れがあります。



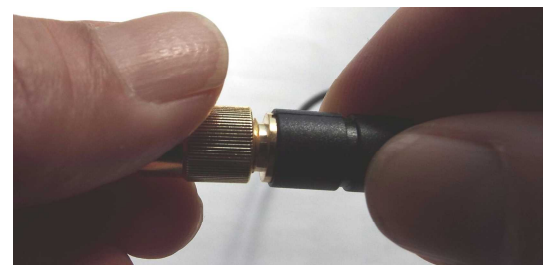
ヘッドフォン

プラグ：箱に入っている **AKG** の「K141MK II」を使います。箱から取り出したときに、プラグが右上図のようになっているかもしれません。

これはテープデッキで使用するために、ミニプラグの上に標準プラグアダプターが被さっている状態です。このままでは **AIF** に接続できませんので、右下図のように持って、互いに左に捻ればネジが緩んでアダプターが取り外せます。

ミニプラグの状態に戻ったら、**AIF** に接続してください。

なお、標準プラグアダプターはヘッドフォンの箱に入れて保管してください。



使用法：また、ヘッドフォンは録音時には使わず、耳から外してください。修正などで録音した音声を再生するときだけ、ヘッドフォンを使用します。実は、録音時にも録音中の音声が聞こえますが、マイクが拾ったアナログ音をそのまま流しているだけで、実際に「録音されているデジタル音」ではありません。ヘッドフォンで聞きながら録音すると、ヘッドフォンから流れてくる音に惑わされて（美声に酔って？）実際に録音されている音量レベルの監視がおろそかになります。その結果肝心の録音データは不完全になるという、大失敗につながります。

オーディオ インターフェース

AIF（Audio Interface、ONKYO 製 SE-U33GXV）

働き：マイクのアナログ信号をデジタル信号に変換して **PC** に送り込む装置です。

接続：この装置に接続するのは、**PC**、マイク、ヘッドフォンの三種です。**PC** とは後部

端子から、**USB** ケーブルでつなぎます。マイクは、前面のマイク端子、ヘッドフォンはその左側のヘッドフォン端子につなぎます。

調整つまみ：前面には二つの音量調整つまみがあります。左側はヘッドフォン、右側はマイク入力音量調整つまみです。

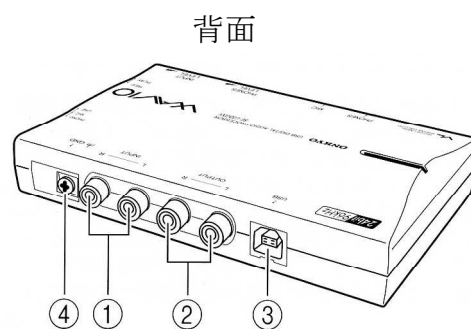
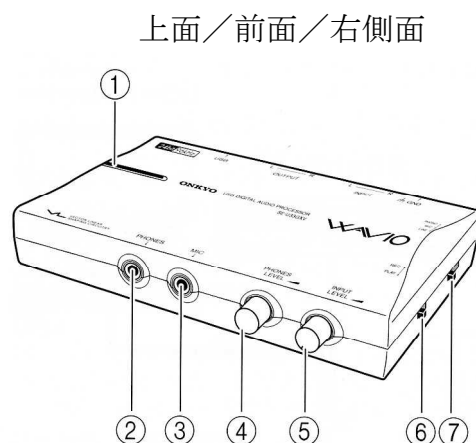
録音時の音量調整は、右側のマイク入力音量調整つまみで行います。右に回せば音量大、左に回せば小です。

ヘッドフォン音量は録音時には絞った方がいいでしょう。というのは、ヘッドフォンから漏れるわずかな音がマイクに入って、録音された音にエコーがかかったり、ひどいときにはハウリングを起こします。

スイッチ：右側面にはスイッチが二つあります。奥のスイッチは前・中・後の三段切り替え、手前のスイッチは前・後二段切り替えです。奥のスイッチは真中の「**MIC**」に固定。手前のスイッチは録音時は後の「**REC**」に、修正などでの再生時は前の「**PLAY**」に切り替えて使用します。

表示器：上面左方には **LED** インディケータがあり、**PC** と **USB** ケーブルで正しくつなわれ、正常に動作しているときには青色に光ります。(光らないときは動作していないときです)

その他：背面には **USB** ケーブルをつないだ端子の他に、二組の赤白の端子と、アース用の止めネジがあります。これらは、通常の音訳／編集では使いません。



- ① INPUT 端子 ② OUTPUT 端子
③ USB 端子 ④ アース止めネジ

- ① 表示器 ② ヘッドフォン端子
③ マイク端子 ④ ヘッドフォン音量つまみ
⑤ マイク入力音量つまみ
⑥ **PLAY** / **REC** 切り替えスイッチ
⑦ **AUX** / **MIC** / **PHONO** 切り替えスイッチ

この後の音訳／編集作業については、「製作マニュアル」等をご覧ください

CAUTION ! コード、ケーブル類をしまうときは、緩やかに折りたたみましょう。絶対に巻き付けしないでください。

「巻き付け→ほどき」を繰り返している内に、コード類は画像のように変形します。その結果、信号が正常に通りにくくなる、ついには断線する等、重大トラブルのもとになります。



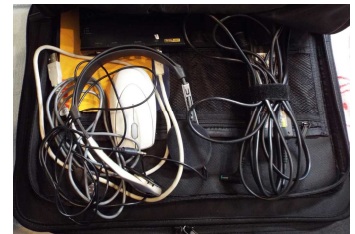
後片付け

自分の後で、近々録音／編集する人があるか無いか、ある場合は、その人がテープ派か **DAISY** 派かによって、片付け方が異なります。

第一のケース

自分の後にテープ録音をする人がある場合。またはしばらく使用者が無い場合。

- ①全ケーブル類を抜き去り、**PC** を収納。
- ②電源アダプターは緩く折りたたんだコードとともに結束して収納。
- ③ **USB** ケーブルを緩く湾曲させて、**AIF** を収納。
- ④同様にマウスとマウスパッドを収納し、ケースを閉じて棚に。
- ⑤ヘッドフォンのコードを緩やかに折りたたんで結束し、ヘッドフォンを箱に収納。
- ⑦マイクコードをブームから外し、マイクをフォルダーから取り外した後、マイクコードを緩く折りたたんでマイクとともに結束し、マイクのケースに収納して、棚に。
- ⑧ブームスタンドの、ジョイントの固定用ノブを緩めてブームを垂直に倒し、ジョイント固定用ノブを締めてブームを固定。
- ⑨三脚は開いたまま、スタンドを隅に寄せておく。
- ⑨壁のコンセントから、テーブルタップのプラグを抜いておく。
- ⑩録音室の照明・エアコンのスイッチ等を切り、ドアに施錠する。



第二のケース

自分の後にデジタル録音または編集をする人がある場合。

- ① **PC** を終了した後、電源アダプターのプラグをテーブルタップから抜く。
- ②壁のコンセントから、テーブルタップのプラグを抜いておく。
- ③録音室の照明・エアコンのスイッチ等を切り、ドアに施錠する。

以上です。お疲れ様でした。